

2022 年度 第 1 回全国健康保険協会愛知支部評議会議事概要

日 時：令和 4 年 7 月 21 日（木）10：00～12：00

場 所：J P タワー名古屋 ホール&カンファレンス

出席者：石川評議員、後藤評議員、坂本評議員、竹内評議員

田中評議員、宮武評議員、山口評議員（議長）（五十音順）

事務局：芦田支部長、山本企画総務部長、後藤企画総務グループ長

松岡保健グループ長、角川レセプトグループ長、鈴木業務第一グループ長

名波業務第二グループ長、佐藤企画総務グループ長補佐、

藤田企画総務グループ長補佐、柴本企画総務グループ長補佐、河原主任

【(1) 2021 年度 協会けんぽ決算（見込み）について】

<学識経験者>

・2025 年度問題を控え、保険料率 10%を維持するのか負担を増やすのかの議論をそろそろ始めた方がよいと思う。

（事務局）

→考え方としては、以前から申し上げているように、平均保険料率が 10%を維持できるところまで維持し、法定準備金を下回ることが見込まれる際は、平均保険料率の引き上げを考えないといけない。

<学識経験者>

・愛知支部の医療給付費の割合が全国平均の割合より高いが要因になるようなことは明らかになっているか。

（事務局）

→本質的な要因はつかめていないが、若い世代が多く年齢調整等の影響は感じられる。

【(2) 2021 年度 愛知支部事業実施結果報告について】

<事業主代表>

・健診受診率について、コロナ禍になる前の KPI の実績はどうだったか。

（事務局）

→KPI には達していなかったが、全国の順位は今ほど悪くはなかった。

機密性 2

<被保険者代表>

・セルフメディケーション推進の通知文書の表現方法について、もっと読んでもらえる内容にしてほしい。

(事務局)

→送付物・広報について、興味を引くように検討していきたい。

<被保険者代表>

・サービススタンダードの達成状況が 100%ということで、ご努力していただいていると思っておりますが、一方で保険証の発送について、事務を集約する前と後の発送にかかる日数の違いを聞きたい。

・健康保険委員は協会けんぽと事業所のパイプ役で委嘱されているため、健康保険委員を活用して、健診の受診率をあげ KPI を達成できる状況にならないか。

(事務局)

→日本年金機構からのデータ連携の翌々日に発送されていることから、以前に比べて量が増えると発送が遅れるということはありませんでした。一方で、機構の事務処理も現在では順調に行われており、以前に比べて保険証発送までにかかる日数は安定しています。よって、総合的には、ご迷惑をおかけすることは減ったのではないかと考えています。

→健康保険委員を活用していければと考えております。

<学識経験者>

・生活習慣病健診の案内送付・電話勧奨をして、受診しなかった理由の情報はあるのか。

・かかりつけ薬局・薬剤師の広報について、薬剤師会と連携した事業を考えているのか。

(事務局)

→事業者健診と比較して、検査項目に胃のバリウム検査などがある。事業所の職種によっては、健診後に影響があり、敬遠されるところがある。

→(追加回答) 現在そのような事業を考えていないが、今後検討する。

【(3) 2023 年度 保険者機能強化予算の検討について】

●次回の議題で、意見聴取を行う予定であるため、先にご意見・アドバイスをいただいた。

<学識経験者・事業主代表・被保険者代表>

・若年層を意識した健康づくり

→健康宣言事業所を増やすことが第一歩。案内やポスターを貼っても、若い人には響かない。健康な人には問題意識がない。若い人に問題意識をもってもらうためには、SNS とか YouTube などを活用し、インフルエンサーとタイアップしたらどうか。また、アプリの作成や自分にとって得になるようなスポー

機密性 2

ツ施設と連携したポイントの付与があるといいと思う。

→アンケートに入力したくなる、サイトに行きたくなる工夫が必要。

→親と子が一緒に取り組める対策があればいいと思う。

コロナ禍となって、これまで当たり前だったものが当たり前でないという意識が若い人にも広がった。健康面に関しても従業員たちの意識がそこで変わったと感じる。

・メンタルヘルス

→会社主導で、社内で孤立させない。上司から言われたことが、業務命令・パワハラ・理不尽な命令なのか判断できない。メンタルが不調になる手前で話を聞き、配置転換・業務見直しの工夫をしている。

→健康宣言の中で、ケアをしていきたい。

→有給休暇をとって、メンタルヘルスの対策になればと思っている。

・その他

→事業所のトップ、従業員に健康経営の重要性、有意義であることをいかに浸透させるかが大切と考える。

→小さなころからの教育を意識していく必要がある。

特記事項

・傍聴者なし

・次回評議会は令和4年10月開催予定